

「重大な挑発行為」

米韓と 安保理の新決議視野 連携堅持



2007年4月に平壤の三大革命展示館で上映された1998年の「人工衛星『光明星1号』打ち上げ」の映像。日米韓などは「テポドン」の発射だったとしている (共同)

さらに今回の発射に向け、北朝鮮は事前に「人工衛星の発射準備」との談話を発表。関係筋は、平和利用を主張することで「米国との決定的な関係悪化を回避しながら、自らの軍事的力量を示したがつていのではないか」との見方を示す。

また中国やロシアは「人工衛星打ち上げ」ならば、新たな安保理決議採択には否定的。政府は「北朝鮮は国際社会の分断も狙っている」と警戒しており、各国の一致した対応を模索する方針だ。

韓国も非難

【ソウル5日共同】韓国の李東官大統領報道官は五日、緊急記者会見し、北朝鮮の「ロケット」発射について「韓(朝鮮)半島と世界の安全保障に深刻な脅威を与える無謀な行動だ」と非難した。

北朝鮮が長距離弾道ミサイルとみられる飛翔体を発射したことを受け、政府は情報収集に全力を挙げて詳細な事実確認を急いでいる。同時に「東アジアの平和と安定にとって大きな脅威だ」として、米国や韓国との連携を堅持しながら、国連安全保障理事会での新たな決議も視野に、厳しい対応を検討する構えだ。日本人拉致被害者の再調査委員会立ち上げについて分析する。

東北地方 被害情報なし 上空通過

北朝鮮の長距離弾道ミサイル発射が確認されたことを受け、警察庁は五日、池田克彦警備局長を長とする対策本部を設置した。警察庁によると、正午現在、落下物などによる国内の被害の情報はないという。

また青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

の東北六県の各県警によると、正午現在、ミサイル発射による被害などの情報はない。警察庁は五日、全国の都道府県警に対し、政府や関係各国の関連施設について警戒、警備を強化するよう指示した。